

平成27年度「学校教育自己診断アンケート」について

今年度の学校教育自己診断アンケートは、1月21日に1年生（284名）、3年生（282名）、1月22日に全保護者（846名）と教員（71名）、1月28日に2年生（280名）に実施した。
※各質問結果の1「あてはまる」2「ややあてはまる」の合計を肯定率とした。また、この肯定率が75%未満の質問や特に目立った結果に対してとりあげた。

【回収率】について

今年度の学校教育自己診断アンケートの回収率について、生徒は1年生95.1%、2年生99.6%、3年生87.6%、教員は昨年度92.9%から98.6%と上昇した。保護者に関しては昨年度1年68.2%、2年50.5%、3年25.9%であったが、今年度は1年64.8%、2年55.0%、3年51.4%で、昨年度と比較すると保護者回答総数は406名から今年度483名に増加している。

⇒3年生徒の回収率が他学年と比べて低いのは毎年この時期、入試等で欠席者が多数いる為と思われる。また3年生保護者については、ふつう学年が進行するにつれて生徒と保護者の伝達機能が薄れていき低くなるのだが、今年度は昨年度の倍の回答数があった。

（１）「保護者用アンケート」について

○質問【2】より、「子どもは学校の勉強が分りやすいと言っている」で、全体で74.6%であるが1年生の数値が69.0%と低く、学年が進行するに従って徐々に上がっていき3年生で83.4%に達している。昨年度の全体数値より10.7ポイントUPしている。

⇒1年生においては、当然のことながら中学校と比べて高度な内容になっていることが第一の原因である。また昨年度からスタディサポートや堺東スタンダードテスト等でリトライシステムを採用して基礎学力の向上を図っている。そのため高校での学習の仕方やスピード、量などが中学校とは違い、慣れていないのが原因と考えられる。生徒の個々の習熟度チェックを頻繁に行い、授業内容の理解度を確認して行く必要がある。

○質問【8】より、「学校はすべての教育活動において生徒の人権を尊重する姿勢で指導にあたっている」が87.0%と昨年度より11.1ポイントUPした。

⇒全教員が常に言動には気を付けて、人権意識・感覚を持ってすべての教育活動で生徒に接してきた成果である。と思われる。

○質問【10】より、「学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に極め細かく行っている」が67.1%と昨年度より6.1ポイントUPした。

⇒保護者が必要とする情報内容を、学校（担任）が把握し常に情報提供しておれば、数値はもっと高い値になる。何を欲するのかを見抜く力量が必要である。さらに、情報提供手段として生徒が配布された連絡プリント等を保護者に的確に渡していないのも要因と考えられる。今後は、より一層のHPの活用と、担任から個々の保護者へ情報を発信していくことが必要である。と考える。

○質問【14】より、「学校は子どもの悩みや相談に適切に応じてくれる」が81.2%と昨年度より8.1ポイントUPした。

⇒学年進行に伴い生徒と教員のコミュニケーションの活性化と信頼関係の確立が定着されつつある。と考える。

○自由記述について

⇒「学習」「環境整備」「教育課程」「情報提供」「進路」「生指」とジャンルごとに多岐にわたり、多くの保護者からご意見、要望等をいただいた。それらについては全ての教職員に周知し、各分掌・教科・部活顧問・学年等で検討・改善に努めていく。

特に、環境整備面で昨年度と同様に「トイレの改修リフォームと清掃の徹底」という意見を多くいただいた。今後、検討の必要性あり。

（２）「生徒用アンケート」について

生徒用アンケートの結果と、保護者用アンケートとの結果比較を行った。生徒用アンケート結果では、ほとんどの質問に対して肯定率が高く学校生活に満足していると考えられる。しかし、質問【8】と質問【9】に関して昨年度と同様に低い数値となった。

○質問【8】、生徒への「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる（か）」という質問で、肯定率が1年27%、2年36%、3年53%、全体39%と昨年度より1ポイント低い結果であった。

⇒1年生については担任が中心に指導や相談を受けるが、学年が進行するにしたがって、選択授業も増え、部活動にも慣れて積極的に担任外の教員とも接する機会も多くなり、相談に行くことが増えたと考えられる。保護者のアンケート結果では「学校は子どもの悩みや相談に適切に応じてくれている（か）」が81.2%の肯定率を得ている。これについては大半の生徒は担任に相談していると推定される。相談（教育、キャリア、健康）体制については今後、改善・検討する必要があると考える。

○質問【9】、生徒への「学校の施設・設備は満足している（か）」という質問では1年40%、2年65%、3年76%、全体60%と肯定率が低かった。昨年度より6ポイント下がった。

⇒保護者用アンケートでは82.3%と生徒より高い。生徒用アンケートでは60%と低い。この差は、生徒たちは毎日、施設を利用して感覚が慣れてしまっているから、たまに訪れる保護者とは感じ方が違うため生じたのではないだろうか。実際44年目の堺東高校の校舎や階段・廊下、トイレ等施設・設備面の老朽化は進んでいる。生徒たちの不満の現われであるとも考えられる。特にトイレ施設については今後、計画的に改修を行っていく必要がある。

（3）「教員用アンケート」について

教員用アンケートの回収率は昨年度92.9%から98.6%と上昇した。アンケート結果の肯定率75%未満の質問が10問ある。その中で特に目立つもの5問を挙げる。

○質問【12】より、「本校の施設・設備は生徒の学習環境に適している」への肯定率は62.9%であり昨年度に比べ17.1ポイント下がった。

⇒やはり堺東高校の校舎や階段・廊下、トイレ等施設・設備面の老朽化は隠せない。またICT教材の充実と活用できる教室の増加を望んでいるものと思える。今後の計画的な改修が必要である。

○質問【16】より「本校では到達度の低い生徒への学習指導を個に応じて行っている」は62.9%と昨年度より14.0ポイント下がった。

⇒意欲の高い生徒に対しては講習開催のアピールもできるし集合することも可能であるが、到達度の低い生徒への、講習の呼び掛けをしても生徒を集めにくい、また個別に指導されているので目立たないのでは。と考えられる。

○質問【23】より、「職員会議や各種会議が教員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している」は45.6%と昨年度より20.0ポイント下がった。一昨年度からは33.3ポイント下がった。

⇒職員会議については、あらかじめ企画委員会で協議内容の論点の整理を十分に行い意見交換も行われた結果なのでそう思われると思う。また昨年度の6月の「学校組織運営に関する指針」の改訂が影響しているように思われる。今後、職員会議で活発な意見交換ができる環境づくりを行う必要があると考える。

○質問【26】より「教職員はPTA活動に参加している」が32.4%と昨年度より12ポイント下がった。データとしては今までで最低数値である。

⇒一昨年度50.9%、昨年度44.4%と年々低下している質問である。週休日はクラブ指導、講習等で多忙な教員が多いため、あまり参加できないのが現状である。教職員への参加啓発の強化や校内で実施できるPTA活動の企画や行事の内容を検討すれば、参加できる教員も増加すると思われる。

○質問【27】より、「仕事の引き継ぎがスムーズに行われて継続性がある」が47.7%と昨年度より3.9ポイント下がった。

⇒年度替わりに、各学年・分掌・委員会の総括を行いPDCAの徹底を図る。次年度の課題に向けて、どのような対応と課題解決をして行くのか、教員一人ひとりが組織人としての認識を高め、課題を共有理解する必要がある。また主任・長が変わる場合は、必ずペーパーやデータファイルで次の者に引き継ぎ、円滑に運営が行われるようにすることが必要である。